**歴史的建造物の商店　福西本店・末廣酒造**

会津は戊辰戦争 (1868–1869) の終わりに新政府軍に降伏し、新しい明治政府は武士階級を解散させました。武士の多くは、生き残るために行政の仕事に転向したり、自分のビジネスを始めたりしました。日本が新しい時代を迎える中、会津の人々は地域経済の立て直しを始めました。

若松市は 1889 年に誕生し、1951 年に若松が周囲の 7 つの村と合併して会津若松になりました。商人は街の経済成長に重要な役割を果たし、中には数百年にわたって商売を続けてきた商人もいます。歴史的に重要な 2 つの会社、福西本店と末廣酒造は、保存状態の良い建物を訪れながら、戊辰戦争後の会津若松の発展と文化について学ぶ機会を提供します。

**福西本店**

福西本店は大正元年（1914）創業、卸問屋を営む富豪で有力な福西家に属します。彼らのかつての私邸は一般に公開されており、当時の建築、調度品、付属品の素晴らしい例を垣間見ることができます。ビジネスの小売側は、現在、同じ建物内で土産物店とレストランとして運営されています。

この複合施設で特に注目すべきは、焼いた松材からのすすの粒子を漆喰に加えることによって作られた珍しい黒い漆喰でコーティングされた旧倉庫です。均一な色と鏡のような輝きを保つ塗装には、高い技術が必要でした。黒漆喰は福をもたらすとされ、多くの商人が白い蔵を持っていた当時、これは福西家の富と地位の明白な証拠でした。

**末廣酒造**

この酒造は1850年に創業し、末廣家によって7世代続けられています。今日、受賞酒は世界中に輸出されており、末廣は日光東照宮神社御用達でもあります。

醸造所は訪問者を歓迎し、リクエストに応じて英語でのガイド付きツアーを提供しています。ツアーは、醸造エリアの散策と、ゆっくりとした発酵を利用してコクのある酒を生み出す伝統的な山廃（天然酵母を使い米をつぶさない）方法の説明から始まります。会社の歴史や酒造りについて展示されている小さな博物館と、店内のバーでの酒の試飲があります。醸造所にはカフェもあり、メニューには日本酒を使ったデザートや、フィルムカメラの大規模なプライベートコレクションがあります。